

左京区長賞・浄土宗本願寺派更生保護事業協会会長賞

セカンドチャンス

京都市立修学院小学校六年 才田 理紗

何の罪もない方が、事件に巻き込まれています。これを見ていたとき、母は、「ちゃんと事情があるかもしれない」と言いました。しかし私は、たくさんの方に愛されていた罪のない方を殺めた彼は、当然重い罰を受けなければいけないのではないかと考えました。命は取り戻せないし、この世界で何よりも大切なものだと思うからです。そう感じていたときに、「なぜこのようにことをするのだろう」と、私の中で疑問が浮かびました。

こんな疑問を持った中、まだ小さいときに体験した出来事をもとに出しました。私は二年生になるまでアメリカにいました。転校してきた私にアメリカの友だちはとても優しく接してくれましたが、その中に私のことをいじめてきた子が一人いました。その子は私が日本人であることをからかったり、英語力や勉強力を馬鹿にしてきました。しかししばらくしてなじむと、驚いたことにこの子は謝ってきたのです。「深い理由があったわけじゃないの。少し嫌なことがあって。あなたに何か悪いことをされたわけじゃないのに、こんなことをしてしまって本当にごめんなさい。」そう彼女は、とてもつらそうな顔をして言ってきました。心の中ではその子を憎んでいる私がついて、「今更？」と思いました。しかし私の口からは、「全然大丈夫、気にしなくていいよ。仲良くしようね。」という言葉がこぼれました。きっとそれは、彼女が本当に後悔している事と罪悪感をひどく感じていることが良く伝わってきたからだと思います。

この出来事は、世間一般の事件に比べると小さいものでしょう。しかし、これは社会で行われている犯罪と同じような事だと思っています。過ちを起こした人はいるかもしれませんが、ですが、その前には必ず何らかのきっかけがあるのだと気づきました。もしかしたら、その人のせいではないのかもしれない。また、この中には、「やり直したい」という

気持ちがある人達はいると思います。そしてこのような人達のためにその間違いを認めて「次頑張ろう」というエールを送らなければ、その人達は同じ過ちを起こさざるを得なくなります。だから二度と同じことをさせないために、まずはこの人達の気持ちを受け止めるという行動がもっとも大切だと思います。先に私達が正しい道に導かなければいけないのです。その一人ひとりの小さな行動が人を救い、社会をより良くするための第一歩になるのではないのでしょうか。

私は今まで、間違った行動をしてきた人に悪い印象しか持ちませんでした。「なぜ、このようなひどいことができるの?」、「責任は取れるの?」、「みんなの気持ちを考えることはできないの?」と。しかしこの作文を書くことをきっかけに、その考え方は違ふと考え直すことができました。失敗をしない人なんて、いないからです。私達だって、そうでしょう。

私はこれから中学生、高校生、大学生、そして、社会人となります。このように成長していく中で、周りで犯罪や事件が起きてもおかしくないのかもしれない。だから、そのときはすぐに相手を決めつけるのではなく、先ほど考えたように周りの人達の気持ちを受け止めて、たくさんの人に二度のチャンスを与えられるような人で在りたいと考えています。私達の思いや優しさ、そして言葉が一つの人生を変えるきっかけとなるかもしれないからです。そしてこの思いがたくさんの人に届いて、少しでもこの世の中に平和が訪れたらいいなと、私は心から思っています。